

microTRACER Ver.7

機能のご紹介

2025.08

株式会社DTSインサイト

2025.08 microTRACER Ver.7をリリースいたしました。

Ver.7では、これまでのバージョンと異なり、データ構造、操作性、視認性をよくするなど大幅な変更を施しました。

本資料では、変更された機能、既存機能の改善内容などをご紹介します。
また、ご利用いただいております旧版のmicroTRACERとの互換性についてもご説明させていただきます。



1. 画面デザインの一新
2. トレーサビリティ構築の流れ
3. ファイル形式の変更（旧形式(Ver.6以前)のファイルについて）
4. タグ解析設定のプリセット機能
5. 廃止となる機能について
6. 今後対応する機能について
7. FAQ

1. 画面デザインの一新

2012年リリース以降、機能拡張を続けてまいりましたが、今後の拡張性を考慮し開発のベースをWPFフレームワークに変更しました。

これによりフォームの見た目や、ドッキングウィンドウ化など、よりWindowsアプリらしい操作性となります。



1. 画面デザインの一新

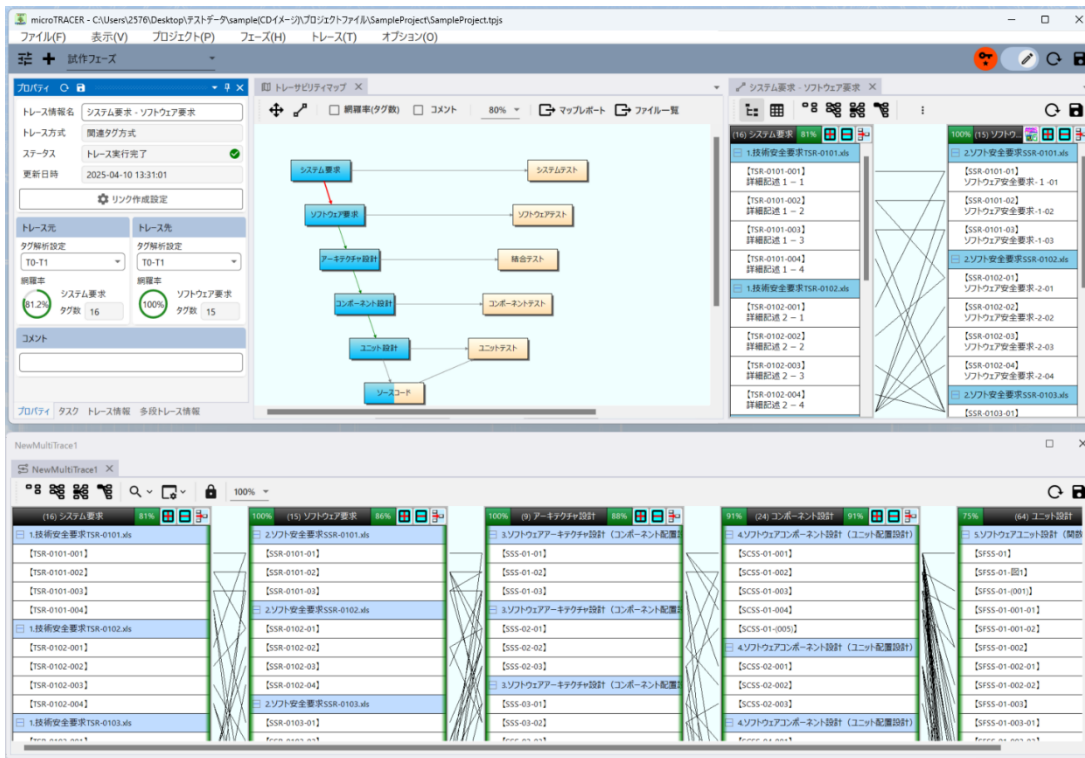
ウィンドウの独立、ドッキングに対応

画面構成を自由にレイアウトすることができます。

レイアウトはPCごとに保存しますのでユーザー独自の設定で表示状態を保持します。

【例】

- マップの隣に一段トレースを配置
- 多段を別画面として表示
- トレース情報を1ウィンドウにまとめる



2. トレーサビリティ構築の流れ

microTRACER初版リリース当時は、ドキュメント間のトレースがとれることが主目的でしたが、時代の流れとともにトレーサビリティの意義や有用性も変化しており、開発工程全体を俯瞰できるトレーサビリティの構築が主流となりつつあります。

そのため、主軸をマップ管理機能に定めトレーサビリティを構築する操作性に変更しました。

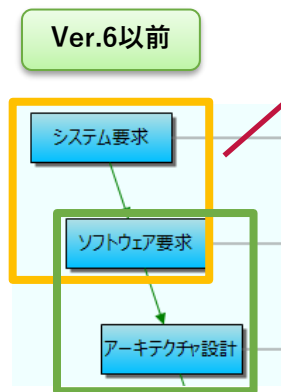


2. トレーサビリティ構築の流れ

タスク単位でタグを管理

タスク単位でタグ抽出に変更しました。

タグ抽出の設定回数を減らすことで作業負担や設定ミスを軽減することを目的としました。



トレース線単位で
設定をそれぞれでしている
⇒同様の設定を
2回おこなう

タスク単位で設定を管理
⇒設定は1回のみ

No	Type	Rev	NewRev	ファイル	コミット日時	差替
1	フォルダ	--	--	C:\Users\2576\Desktop\テストデータ...	--	差替
2	フォルダ	--	--	C:\Users\2576\Desktop\テストデータ...	--	差替
3	フォルダ	--	--	C:\Users\2576\Desktop\テストデータ...	--	差替
4	フォルダ	--	--	C:\Users\2576\Desktop\テストデータ...	--	差替

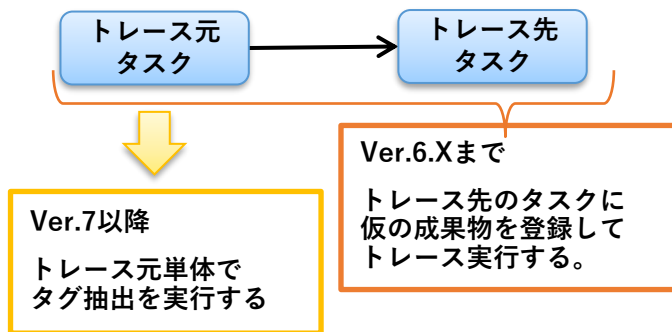
2. トレーサビリティ構築の流れ

タスク単位でタグを管理

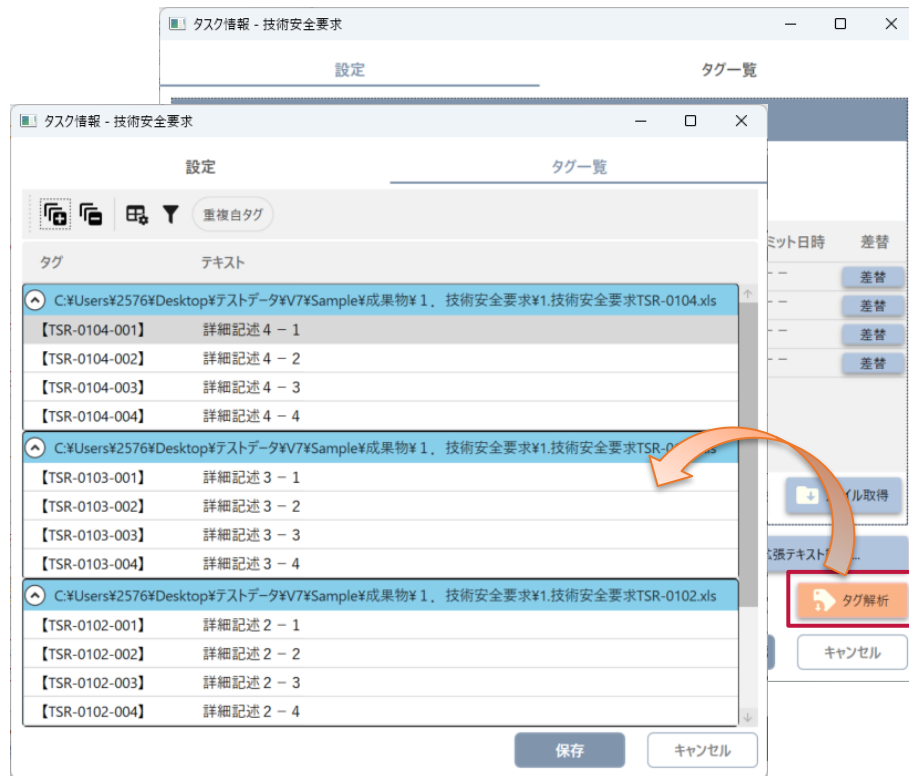
タグの抽出をタスク単位で実施できるようにしたことにより、想定している通りのタグが抽出できているのか、確認をスムーズに行うことができます。

【例】

トレース元のタグ解析設定が正しいか確認したい

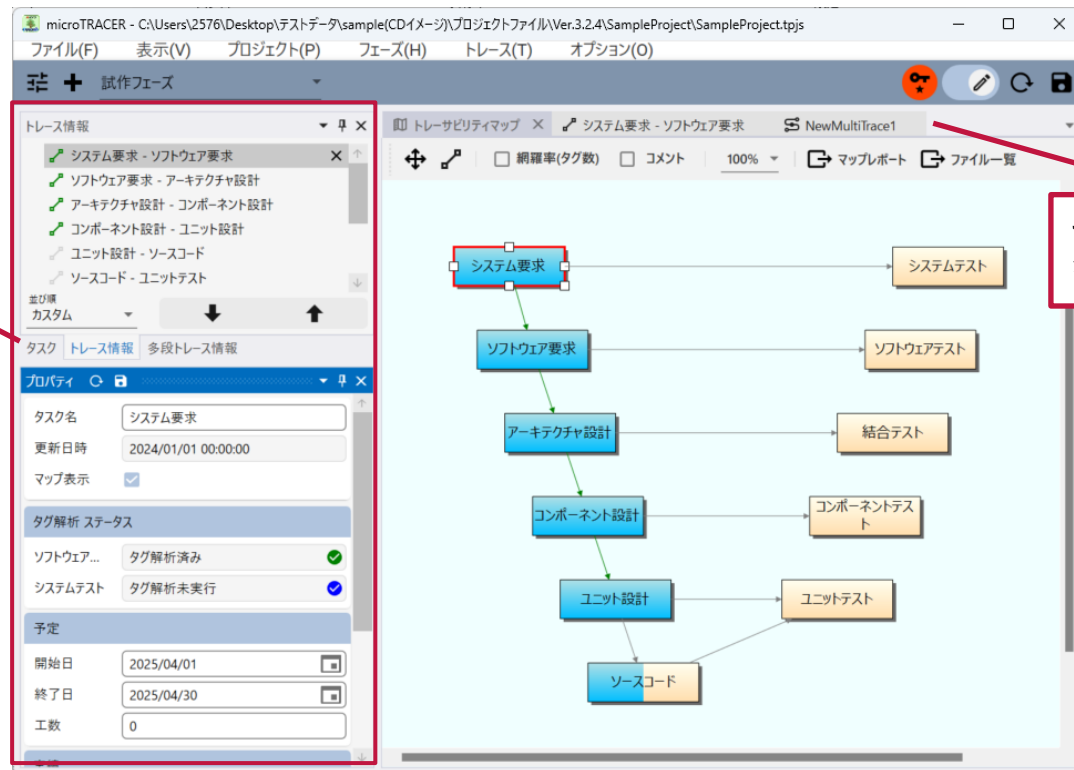


⇒ トレース先に仮成果物を登録する手間や、
トレース実行時間の軽減につながります。



2. トレーサビリティ構築の流れ

各要素の情報を確認できる画面を新設



タスクに加えて一段、
多段トレースも管理

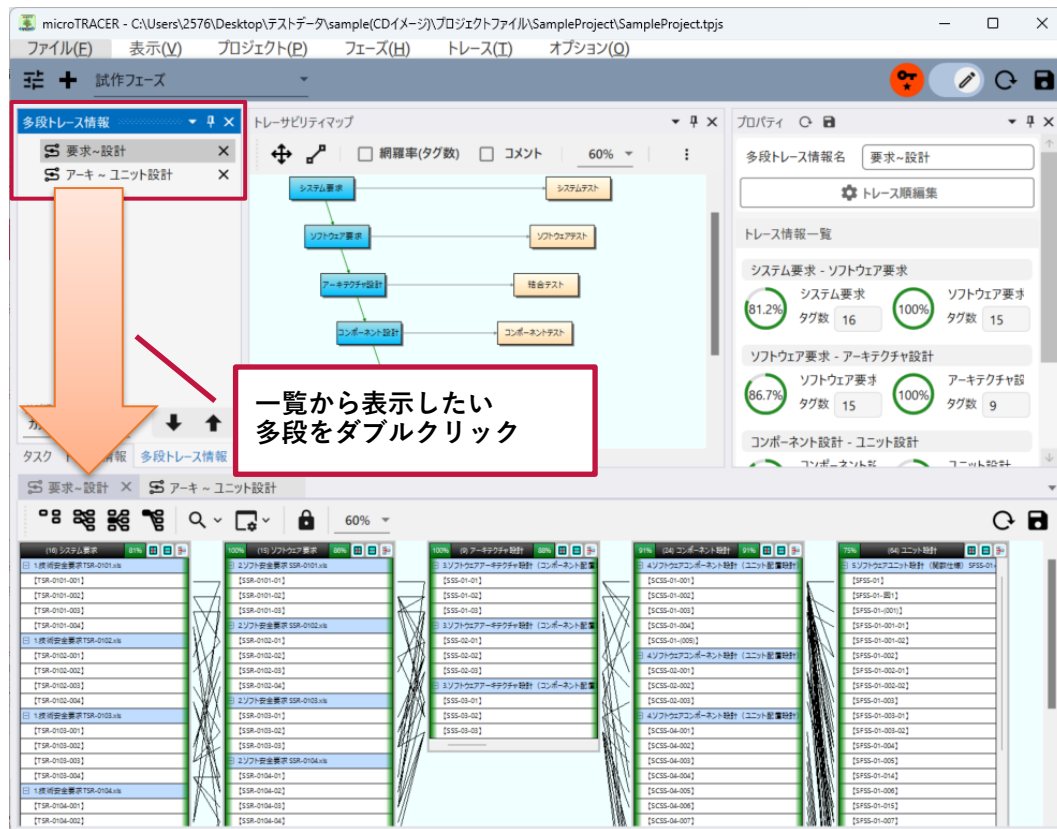
マップ画面とトレース画面を
タブで管理

タグ抽出状況やトレース実行
ステータスの確認が可能

多段トレース情報の保持

マップ画面から保存した多段トレース情報をプロジェクト内で管理し、作成済の多段トレース情報を呼び出すことができるようにしました。

旧版では、エクスプローラー経由で多段トレース情報ファイルを開く必要がありました。が、シームレスにトレースサビリティの確認が行うことができます。

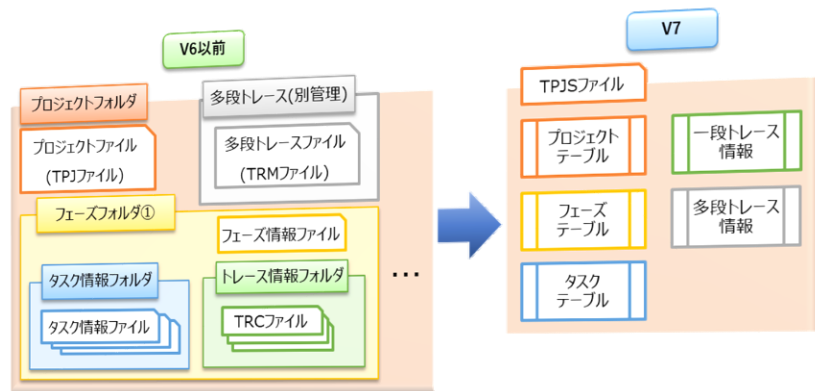


3. ファイル形式の変更 (旧形式(Ver.6以前)のファイルについて)

旧形式ではトレース情報ファイルといった複数のファイルを管理しておりましたが、情報の持ち方を変更し新プロジェクトファイルとして一元管理いたします。

これまでお使いのトレース情報ファイル、プロジェクトファイルは変換しVer. 7にて継承してご利用可能です。

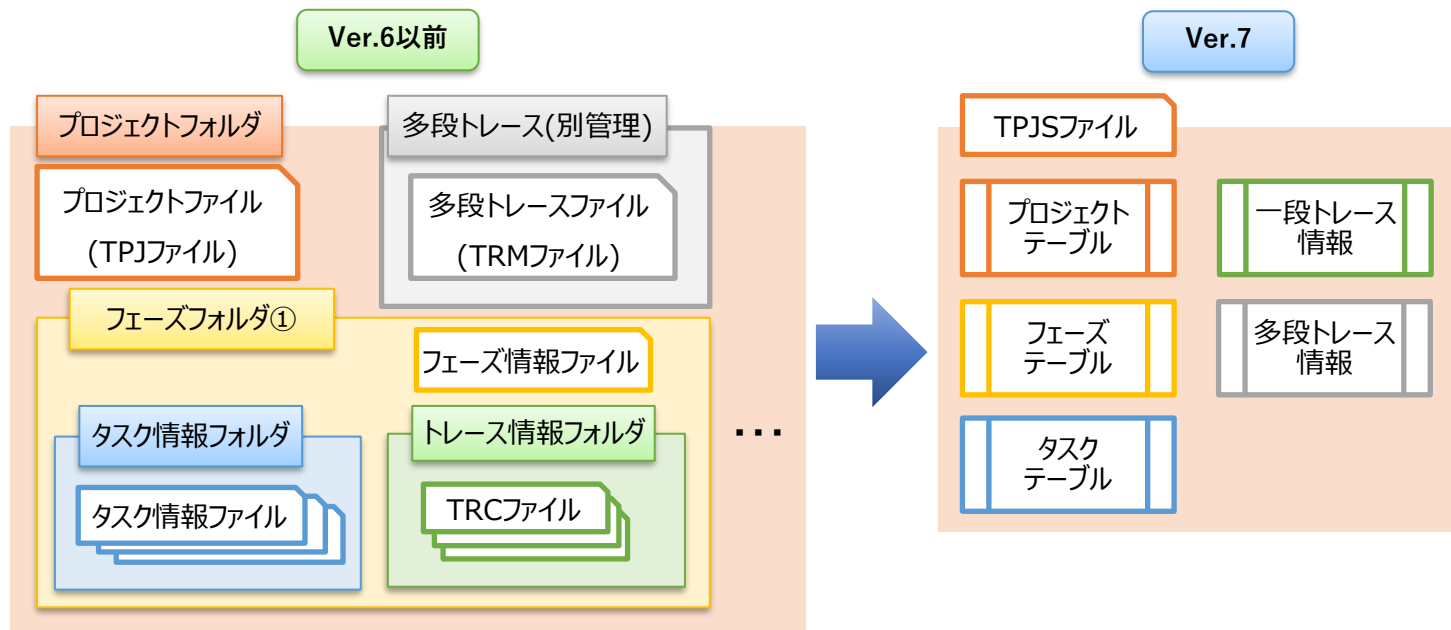
(Ver.7形式のファイルを旧形式にすることはできません)



3. ファイル形式の変更（旧形式(Ver.6以前)のファイルについて）

ファイル構成の変更

マップ管理機能の改善に伴い、プロジェクトファイルの構成を変更しました。



3. ファイル形式の変更（旧形式(Ver.6以前)のファイルについて）

旧形式のファイルは、Ver.7では使用できません。変換が必要となります。

マップ管理機能の改善に伴い、Ver.6.X以前で作成されたファイルはそのままでは使用できません。

■Ver.7で使用できなくなるファイル

- ・ トレース情報ファイル(.TRC)
- ・ 多段トレース情報ファイル(.TRM)
- ・ プロジェクト管理ファイル(.TPJ)
- ・ トレース情報ファイル(.TCM)

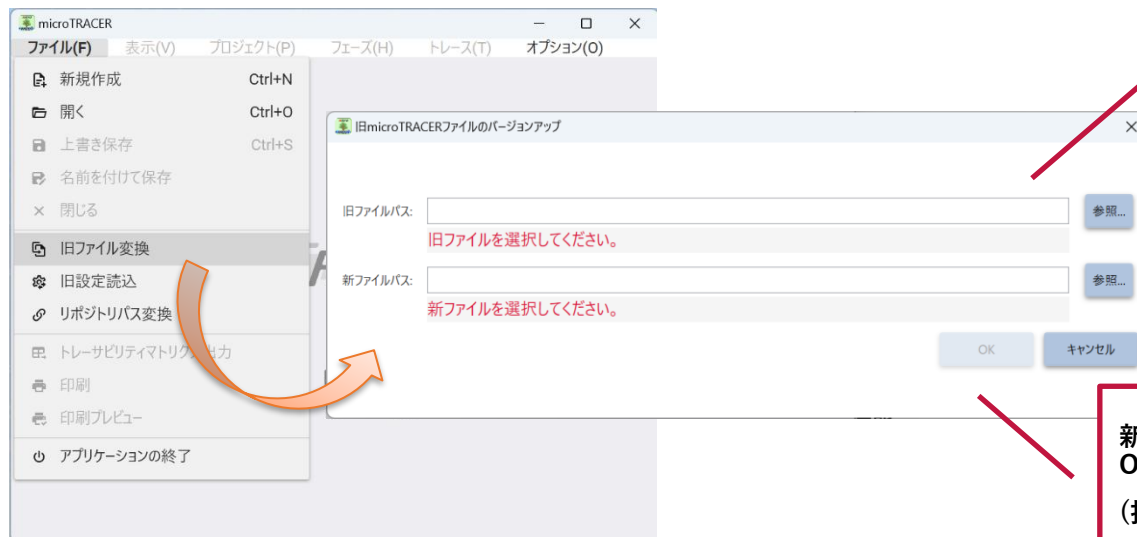
Ver.6.X以前で作成されたファイルをVer.7以降も使用する場合は、新形式のプロジェクトファイルに変換する操作が必要です。

3. ファイル形式の変更（旧形式(Ver.6以前)のファイルについて）

旧形式のファイルを新形式に変換

[ファイル]メニューの[旧ファイル変換]の機能を使用します。

クリックすると「旧microTRACERファイルのバージョンアップ」画面が表示されるため、
変換対象のファイルを指定してください。



以下のファイルが指定可能です。

- ・トレース情報ファイル
- ・多段トレース情報ファイル
- ・プロジェクト情報ファイル

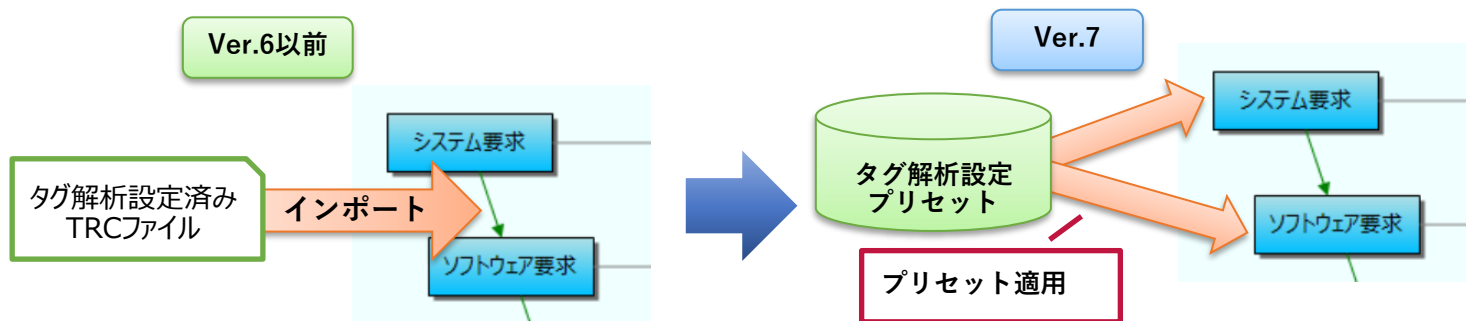
新形式ファイルの保存先を指定して
OKボタンをクリックすると変換されます。
(指定した旧ファイルはなりません。)

3. ファイル形式の変更（旧形式(Ver.6以前)のファイルについて）

TRCファイルを用いた情報展開運用をされている場合

トレース情報ファイル(TRCファイル)が廃止されることにより、マップ機能「TRCファイルのインポート」機能も合わせて廃止します。

タグ解析設定の流用にインポート機能を使用されている場合は、次章に記載の「タグ解析設定のプリセット機能」を用いた運用に変更していただく必要があります。



別グループ、社外の開発チームとTRCファイルを用いてトレーサビリティ情報を共有するような運用についてはVer.7.0.0.0リリース直後のバージョンアップにて代替機能を追加する予定です。

4. タグ解析設定のプリセット機能

タグの解析設定にプリセット機能を設け、設定の煩わしさから解放します。

プリセット機能は、タグ解析設定の情報を管理し再利用を目的とした機能です。

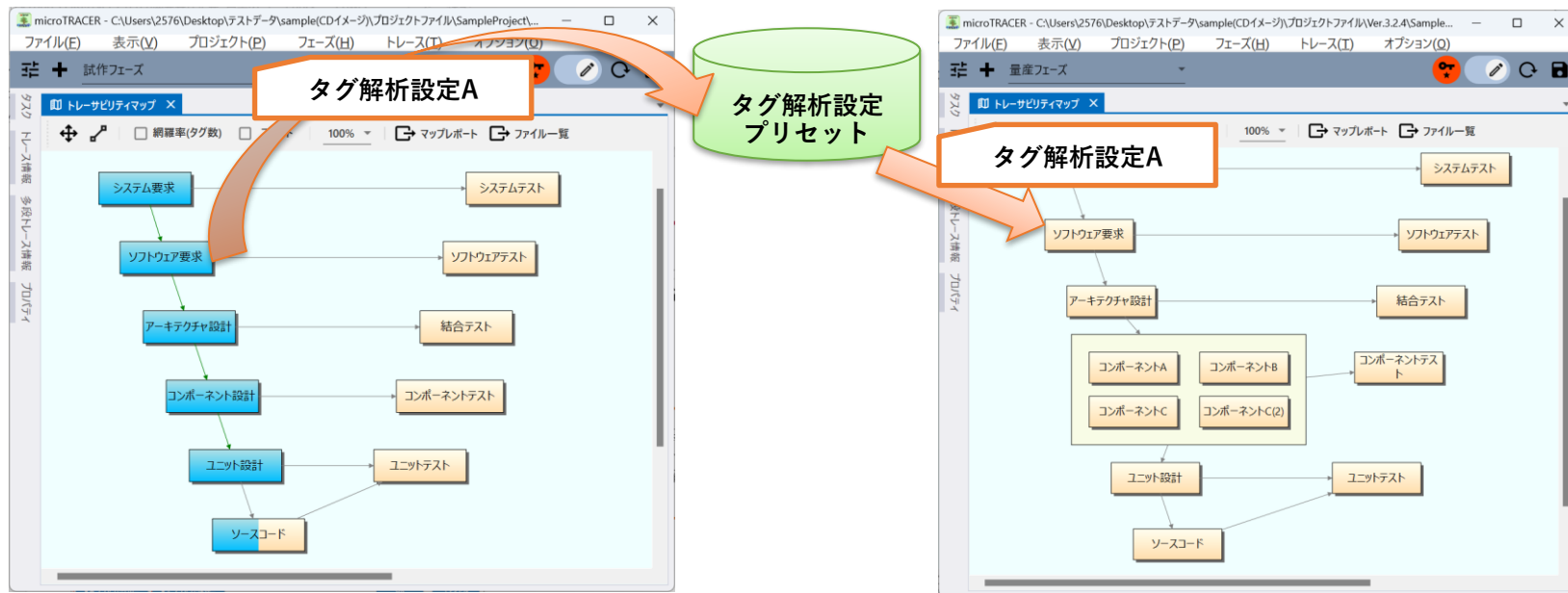
- Simulink連携機能やEA連携機能などタグを抽出する箇所が固定されている場合など都度設定の必要性がなくなります。
- 管理者がプリセットを用意し、メンバーにプリセット情報を展開することでメンバーの作業負荷や設定間違いを軽減します。



4. タグ解析設定のプリセット機能

タグ解析設定のプリセット機能

異なるプロジェクト、フェーズでもタグ解析設定を流用できる機能です。



4. タグ解析設定のプリセット機能

プリセットの設定



タグ解析設定

ファイル共通設定 ☐ ファイル個別の設定を行う

タグ解析設定 対象別解析設定

☐ ファイル名を対象とする
☐ ファイル名をタグとする ☒ ファイル名からタグを抽出する

☐ 正規表現 ☐ 識別子なし

自タグ／関連タグ

	正規表現	識別子なし	識別子
タグ1	☐	☐	【TSR-*
タグ1	☐	☐	【TSR-*
タグ1	☐	☐	【TSR-*
タグ1	☐	☐	【TSR-*
タグ1	☐	☐	【TSR-*
タグ1	☐	☐	【TSR-*
タグ1	☐	☐	【TSR-*
タグ1	☐	☐	【TSR-*
タグ1	☐	☐	【TSR-*
タグ1	☐	☐	【TSR-*

プリセット選択

名称	Note	タグ解析設定	Excel	Word	PowerPoint	Visio	Te
デフォルト値	デフォルト(削除不可)	*	*	*	*	*	*
プリセット1	Excel-単票での取得	*	*				
プリセット2	Excel-〇〇社向けフォーマット	*					
プリセット3	Excel-サブテキストC列指定	*					

インポート エクスポート 確認 変更 複製 削除 閉じる

プリセット呼出... プリセット保存...

設定済みのタグ解析設定をプリセットとして保存することで、他タスクへ設定を流用できます。

プリセットに名前とメモを設定
⇒どの工程の設定なのか判断が容易

タスク単位のタグ管理と同様、設定作業の負担とミスの削減につながります。

他環境(PC)で設定を引き継ぐためのインポート/エクスポートが可能

※内容は変更される場合があります。

5. 廃止となる機能について

既存機能の改善、および新たな機能の追加に合わせ、microTRACERの一部機能を廃止いたしました。

Ver.7から廃止する機能

■ 廃止機能

● 旧関連タグ方式

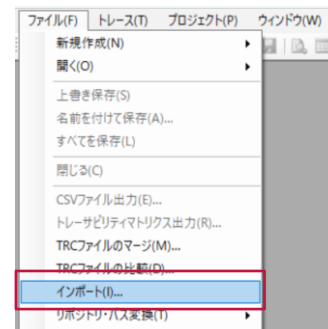
⇒ 多段トレース情報として構成した際に、正しいトレーサビリティ構築ができないケースがあり、同等のタグの抽出は「関連タグ方式 – 自タグモード」にて再現可能であるため廃止いたしました。
(既に設定/運用されている場合は、新形式のプロジェクトファイルに変換した際に、自動的に置き換わります)

本機能については後述にて詳細を説明させていただきます。

● CSVファイル出力

● トレース情報のインポート機能([ファイル]メニュー)

⇒ 上記2機能ともに、ツール連携オプションには未対応であることと、且つお客様の利用状況を顧み、本機能を廃止いたしました。



■ 廃止機能

● コマンド機能の一部廃止

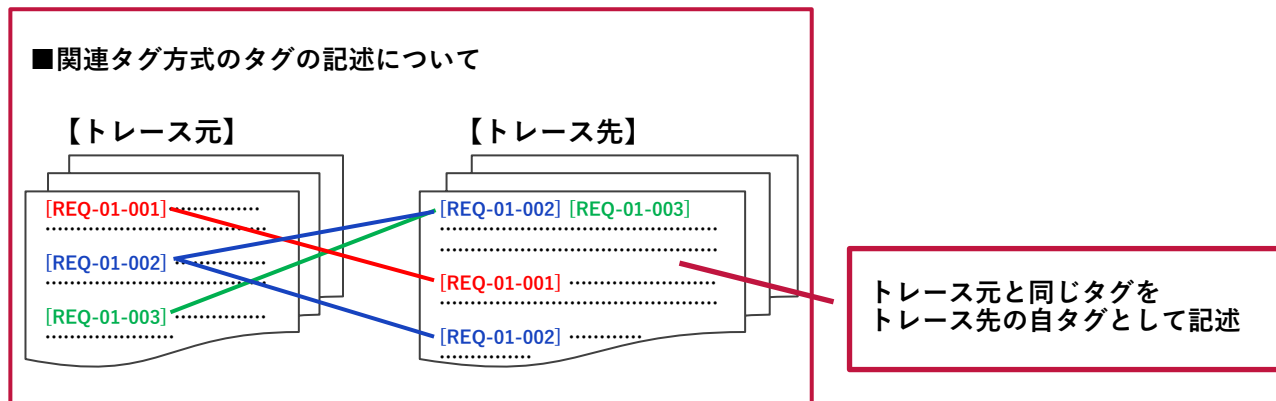
ファイル形式の変更により、以下のコマンドが廃止となります。

コマンド	変更内容
トレース実行 (exetracing)	トレース情報ファイルがなくなることにより 本コマンドは廃止いたしました。
多段トレース情報ファイルの一括トレース実行 (multitracing)	多段トレース情報ファイルがなくなることにより 本コマンドは廃止いたしました。

Ver.7.0.0.0からは、一括トレーサビリティ構築コマンド(maptracing)をご利用ください。

旧関連タグ方式とは

上流成果物と同一のタグを、下流工程の関連する箇所に記述することでトレーサビリティを構築するタグ方式です。



「関連タグ方式」にて作成されたトレース情報ファイルは、旧ファイル変換で問題なく引き継がれますのでご安心ください。

6. 今後対応する機能について

既存機能のうちデータの構造変更に伴い実装を見送った機能や、連携機能を順次対応していく予定です。

■ 予定機能

- プロジェクトファイルの比較機能
- プロジェクトファイルのインポート機能（マージ機能）
- リポジトリ・パス変換機能
- オプション機能
 - ・ タグ挿入機能
- 連携機能（オプション）
 - ・ 機能本体（対応まではVer.6をご利用ください）
 - ✓ PVCS VersionManager 連携
 - ✓ Jama Connect 連携
 - ・ Git連携オプション
 - ✓ ブランチの更新状態の表示機能
 - ・ 各連携ツールのVer.追従対応

7. FAQ

- 旧バージョンとの併用は可能ですか？
 - ・ 併用可能です。
 - ・ Ver.7のデフォルトのインストール先は旧バージョンと別フォルダーとなり、旧バージョンをアンインストールすることはありません。
 - ・ 併用可能ですが以下の点にご注意ください。
 - ・ 旧バージョン（Ver.6 以前のVer.）のアップデートは今後行われることはありません。
 - ・ 旧バージョン（Ver.6 以前のVer.）は、2027.08 にサポートサービスを終了させていただきます。
 - ・ Ver.7で作成したプロジェクトファイルは、旧バージョンで使用することはできません。
- ライセンスサーバーは旧バージョンと別にする必要がありますか？
 - ・ 同一サーバーマシンで運用可能です。
 - ・ Ver.7のライセンスファイルを旧バージョンのライセンスファイルと同じフォルダに格納し、LASYSで再起動するのみです。
- 複数プロジェクトも1画面で管理されるのでしょうか？
 - ・ これまでと同様に1プロジェクトに対し1画面（1プロセス）です。

Our **insight**, your value

見えないものを“可視化”する お客様のニーズを“かたち”にする

